

ライフケアガーデン熱川 本館

症例概要 入居者：100代 女性 要介護4
病名：認知症、頭部外傷後遺症
経過：M県にて4人兄妹の長女として出生。4人の子供を持つご主人と結婚する。
実子はいないが、ご主人と前妻との間に生まれた子供たちと養子縁組しており関係は非常に良好。
1998年にご主人と死別してからは長男宅や東京の長女宅にて生活される。
2015年にI地方へ移住し独居生活を始めるも、火の消し忘れ等の認知症状が進行してきたことから2017年当施設入居となる。
2021年4月頃より体力と認知機能の低下がみられ自立であった入浴や排泄が一部介助となる。
2022年4月頃からは居室内で転倒を繰り返すとともに介護拒否による暴力行為がみられた。

内 容

入居時既に90代でしたがADLは自立しており、ドライブや外食、陶芸体験といったレクリエーションに積極的に参加し当施設での生活を自分らしく楽しむ入居者さんでした。

2022年4月頃から体力低下による転倒が度々発生、活気がなくなり居室で横になっていることが多くなりました。また、排泄や食事を介助しようとした職員を叩いたり噛みつく等の暴力行為も発生しました。職員が寄り添うも表情は陰しく、日々の生活を楽しんでいた頃のように笑顔を見せることはなくなりました。

入居者さんの笑顔を取り戻せるよう、2023年6月にお誕生日を迎えることから長寿のお祝い会を企画しました。また、感染対策による面会制限が緩和されることからご家族を招待し、盛大に実施するべく各部署が連携、会の進行やバースデーケーキの準備、会場設営、スライドショー上映をそれぞれ担当しました。

同時に、職員は長寿の企画を進める中で気付いた入居者さんの人柄や好きなことを日々の対応に取り入れていきました。

出身地であり70年以上暮らしてきたM県の方言をリハビリや介助時の声掛けに織り交ぜ、「おはよがす（おはようございます）」、「いがったなやー（良かったですね）」等と親しみを込めた声掛けを実施しました。すると入居者さんは、「んだ、んだ」と柔らかな笑顔で相づち、介護拒否は日に日に減少していきました。

長寿のお祝い会当日、約1年振りに再会した入居者さんご家族は大変喜ばれ輝くような笑顔を見せてくださいました。沢山の入居者さんや職員にお祝いを受け、スライドショー上映時やお言葉を頂く際には娘様が感極まって涙を流される場面もありました。ケーキを囲んで数年振りの家族団欒を楽しまれた後、ご家族から職員へ「本日はありがとうございました。母がこの齢まで幸せに生きてこられたのも皆さんのお陰です」と、お礼の言葉を頂戴しました。

また、スライドショーの作成において花と一緒に笑顔を浮かべている入居者さんの写真が多くあったことから、お茶会等のレクにて花に触れられる機会を設けました。入居者さんは季節の花に目を輝かせ、他のご入居者や職員との会話を活気ある笑顔で楽しむようになりました。

活気がなくなり介護拒否のみられる入居者さんが、職員の心のこもったお祝いと親身な対応によって、ご家族と感動に包まれた時間を過ごし、活気ある笑顔がよみがえる事例となりました。